

発達障がい児の子育てを支える 情報発信事業



発表者：キラリっ子ファミリーカフェ

協働相手：立川市子ども家庭部
子ども家庭支援センター



実施団体紹介

市民活動団体 キラリっ子ファミリーカフェ

2017年設立 スタッフ7名

グループLINE登録者 昨年度79→94名

事業での役割: 保護者ニーズの把握と情報発信

イベント・講座等の企画・運営

協働相手 立川市子ども家庭部 子ども家庭支援センター

事業での役割: 小中学校等の関連機関との橋渡し

広報、講座会場の提供、アンケートの実施等

事業概要

発達障がい児保護者の孤立を防ぎ、

必要な情報によって子育てを支えるため、

①おしゃべり会②講座・勉強会③親同士や親子の交流イベント

④現場や保護者に配布する通信やSNSによる情報発信

を行う。



2022年度活動報告

①おしゃべり会...

- 対面開催 子ども家庭支援センターと共催(たんぽぽおしゃべり会)12回
(毎月第三火曜日 (3月のみ第二火曜日開催)
10時~12時 立川市子ども未来センターにて)
※協働事業ではなく子ども家庭支援センター主催だが、協力団体として参加



- キラリっ子単独での対面開催 ※協働のまちづくり推進事業

6月11日(土)10~12時 砂川学習館

9月 6日(火)10~12時 西砂学習館

※単独開催では、土曜日開催や未来センターから遠い地域の出前を実施しています



③親同士や親子の交流イベント...

- 保護者リフレッシュイベント

5月24日(火)いけばな~フラワーアレンジでリフレッシュタイム

- 親子交流イベント

7月31日(日)粘土でマカロンクマさん作り



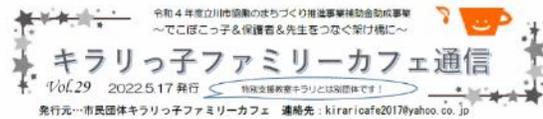
②講座・勉強会

- 7/23(土) 明星大学 森下由規子先生の講座
「子どもたちの学びと学校生活を支えるために」
...コロナ感染拡大のため対面→オンライン開催 47名申し込み
- 9/4(日) 常磐大学 秋山邦久先生 オンライン事例検討会
... 21名参加
- 10/22(土) キラリっ子ファミリーカフェ代表による
「就学前に知っておきたいこと」講座
...12名参加
- 2/7(火) 青谷典子先生「気づく！叶う！進む！すごろくノート術」講座
...8名参加
- 3/4(土) 藤原里美先生「行事参加を嫌がる子どもたちのために」
オンライン講座
...48名参加

④現場や保護者に配布する通信やSNSによる情報発信

●キラリっ子ファミリーカフェ通信の配布 ...計11回

市内小・中学校・幼稚園保育園の教職員、キラリプラス利用家庭、情緒障害児特別支援学級、子育てひろば、児童館へ



運動会…つらい子がいるのはなぜだろう？

5月に運動会を行う学校も多いでしょう。年度初めで大変ななか、運動会のために子どもたちへの指導や準備にご協力くださる先生方には、心より感謝申し上げます。
ですが運動会の練習が始まると、「情緒不安定になる」「参加したくない、逃げ出す」「かんしゃくやパニックを起こす」「登校を嫌がる」といった、いわゆる「困った行動」をとる子どもたちもいるのではないのでしょうか。実はその「困った行動」には、発達特性ゆえに「困ってる、つらい」という子どもたちのSOSが隠れているかもしれません。ここでは、発達特性による「困ってる、つらい」のうち、代表的な事例をいくつかご紹介いたします。

ピストルの音、ダンスの音楽、大勢のザワザワする声がつらい…

感覚過敏は、本能的に身を危険から守るための脳のはたらきで、人並み以上に敏感に強く出るものです。聴覚の過敏を持つ子どもたちには、ピストルの音やスピーカーからの大音量・大勢の子もたちが集まってザワザワとする声や物音が、突然の爆発音やガード下の電車の音並みに聞こえるのかもしれない。

感覚過敏の子は、整列時に後ろの子に触られると身の危険を感じたり、身体との接触がある組体操が苦痛だったり、反射的に相手を叩いたり押し回したりするトラブルがよくあります。また、組体操やダンスで規定になる際、「針の上を歩くみたいに痛い」と言った子どももいました。

学年・学校での全体指導では、先生の指示する声が大きかったり、時に厳しく指導することもあるかと思えます。不安が強い子どもにとっては、自分が怒られているのではなくても恐怖心を惹き、なかには学校に行けなくなった子どももいました。とはいえ、大声や厳しい指導が必要なのもあると思います。このような不安を感じている子がいることを知り、気持ちを理解し寄り添い、安心させてあげてほしいです。

自分が怒られてなくても、みんなに指導する先生の優しい声、大きい声が怖くて…



どうして読むのが難しい子がいるの？

子どもたちの中には、物知りだったり、人の話を聞いてよく理解ができるのに、音符が苦手だったり、漢字が書けなかったり読めなかったり、計算が苦手だったり…という子どもたちがいます。その子どもたちが良くてできることがあると知っている周りの大人たちは、「やる気を出そうよ！やればできる！」と叱咤したり「できないなら、できるまでいっぱい練習しようよ！」と励ましたりしますよね。
…本当に、どの子どもみんながそうでしょうか？ 実は、読めない理由がある子どもたちがいるのです。

タイプ1: 文字を見て 音に変えるのが むずかしい、時間がかかる

りんご → ri n go

単語(言葉)を見て いっぺんに 音に変えることができる

りんご → ri n go

一文字一文字見て 音に変えていく

タイプ2: ものの見え方が ちがっている

- ・反転して見える
- ・紙や画面が光って見えて、ぼやける
- ・ゆがんで見える

☆その他にも、いろいろなお見え方のパターンがあります

→現場からの要望を受けて

一部の知的障害児特別支援学級
社会福祉協議会学童保育所
健康推進課
にも配布

●SNSでの発信...4年度からInstagramも開始

グループLINE登録者94名、 ブログ202フォロワー、Facebook・Instagramで発信

※アンケートより



キラリっ子ファミリーカフェに中々参加出来なくても、繋がりを持ってください SNS で救いの手を差し伸べていただいたり、知っている情報を公開して下さったり等、代表をはじめスタッフの皆さまに感謝しています。

いつもありがとうございます。我が市にもこんな温かい場所を作りたいです。色々学ばせてください

いつも温かい雰囲気のおしゃべり会はとても心地よく、時間があっという間でもっと皆さんと一緒にいたいなーといつも思います。

“通信”の内容がとてもよく、興味深く毎回読ませてもらっています。また講座やイベントも色々と本当にありがとうございます！



※オンライン講座についてのアンケート



都合がつけやすい、移動時間がいない、子どもが幼いので家にいたまま参加できてありがたい

相談内容によってはオンラインの方が個人情報
がもれる心配がなく安心して相談できる。

対面だと参加できない夫も当日声をかけたら
途中からですが、一緒に話を聞いてくれたので
良かったです。

対面の方が先生と直接コミュニケーションが取れる、
同じ悩みを持つ親同士、「この人同じ悩みだ、話して
みよう！」と繋がる場もあるとありがたい。



会計報告

交付希望額	460,888円
補助金額	460,888円
申請額(実績報告)	375,022円
精算(返金額)	85,866円

※詳細についてはお手元の資料をご覧ください。

今後の事業展開について

①講座の開催について

- ・行政との共催で恒例となっている

「就学前に知っておきたいこと講座」「発達に不安がある子の保護者向け講座」については、子ども家庭支援センター・柴崎学習館共催で、継続していただくことになった。

- ・オンライン開催してきた「秋山邦久先生の事例検討会」「藤原里美先生の発達支援講座」については、

東京ボランティアセンターの「ゆめ応援ファンド」助成金を受け、

「発達でこぼこっ子サポーター養成」の一環として実施することになった。(令和5年度より3年間)

②賛助会員制度の導入

●賛助会費の利用目的...

・支援活動を継続するために必要なサービスの使用料金

(zoom、申し込みフォームサイト、クラウドサービス、
スタッフボランティア保険、スタッフ交通費等)

・活動案内チラシ、リーフレットの作成

・キラリっ子ファミリーカフェ主催の講座やイベントの開催費用

参加者から希望があったテーマや講師での講座開催 等

・そのほか、活動に必要な消耗品等の購入

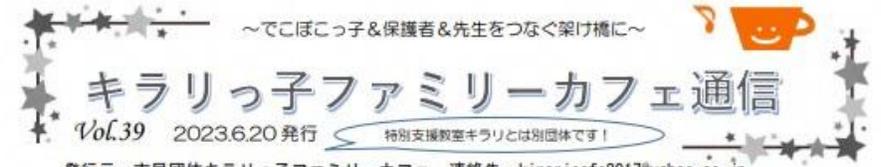
・予算によっては、啓発活動の資金としても使用

※3月から募集開始...現在2企業・17個人が参加 71,000円

③キラリっ子ファミリーカフェ通信の発行

令和5年6月より、
立川市障害福祉課が
「障がいのある人もない人も
暮らしやすい立川を考える会」
に委託している啓発事業の一つとして
発行できることになった。

配布先...今までと変わらず



立川市委託事業の一環として
発行できることになりました!



私たち「子育てサポートコミュニティ キラリっ子ファミリーカフェ」は、発達に不安がある子どもを育てている保護者を支援する市民団体として、2017年から活動を始めました。
代表・副代表をはじめ、スタッフは全員、でこぼこっ子の保護者です(▽)
自分たちが救われた経験をもとに、同じように子育てに悩み苦しんでいる親御さんの支えになれば…と、育児や仕事をがんばりながら、無償ボランティアの市民団体として活動に取り組んでおります。誰でも気軽に参加しやすいように…と、年会費などを徴収せず、行政や民間の助成金で運営してまいりました。

7年目となる現在、情報発信をしているグループLINEの登録者は95名、ブログフォロワーは201名です。行政のご理解ご支援の元、園や学校を通じて、ここまで支援の手を広げることができました。
3年間続いた子ども家庭支援センターさんとの協働事業「発達障害児の子育てを支える 情報発信事業」が終了し、今後のキラリっ子ファミリーカフェ通信の発行について検討や調整を重ねてまいりました。
その結果、「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」が立川市から委託を受けて行っている啓発事業の一環として、通信を発行させていただけることになりました!
今後も保護者と先生方・行政との懸け橋となるよう尽力してまいります。よろしくお願いたします!

代表 中村ひとみ(早期発達支援士 発達支援スペシャリスト 元特別支援学校・小学校教諭 保育士)

私達は こんなことに取り組んでいます!

- ☆おしゃべり会
子育ての悩みや不安をお互いに話したり情報交換したりする場所です。
- ☆勉強会・講座
市と協働で、発達や子育て・進学や就労・支援サービスなどを学べる講座を開催しています。
- ☆啓発活動
地域の皆様に発達に不安がある子どもたちについて知っていただくためのイベント開催や情報発信をしています。
- ☆団体・地域との連携
立川市内や近隣自治体の支援団体や商店街と情報を共有したり協働で企画を行う等、連携の輪を広げています。

自己評価および課題

3年間本事業を利用させていただき、行政との協働だったからこそ得られた大きな成果がたくさんあったことを実感している。

- ・行政を通じて講座の実施や通信の配布を行ったことで、多様な現場で利用者を増やすことができた。
- ・行政ではまだ困難が多いSNSでの発信やオンライン講座の開催の実施により、多様なニーズの利用者に情報を届けることができた。
- ・おしゃべり会やSNS等で相談を受けた際、直接行政には相談しづらい、どこに話したら良いのかわからない、という声もある中で、当団体から必要な行政支援に速やかにつなぐことができた。

この3年間の成果は、行政にはどのように評価されているのかを知りたい。協働事業であるからこそそのメリットを評価してくださっているなら、今後も協働関係を保って支援活動を行っていくことは可能だろうか。事業終了後に協働関係をどう活かしていくか、これは「協働のまちづくり推進事業」の課題でもあるのではないだろうか。



3年間
本当に
ありがとうございました！



質疑応答(5分間)

※詳細についてはお手元の資料をご覧ください。